

令和8年美濃加茂市教育委員会 4月定例会 会議録

1 開会日時及び場所

令和8年4月30日(木)午後3時00分から午後4時15分まで

生涯学習センター4階 402研修室

2 出席者

(教育委員)

教育長 梅村 高志

委員 武田 由美

委員 渡邊 博栄

委員 安藤 摩里

委員 榊間 月絵

委員 中西 東峰

(事務局)

副教育長兼教育委員会事務局長 石黒 幸治

教育総務課長 伊藤 浩申

学校教育課長 高橋 泰行

教育センター次長 井上 貴弘

教育総務課課長補佐 太田 文生

3 欠席者 なし

4 開会 午後3時00分

5 議事日程等

(1)教育長あいさつ

(2)会議録署名委員の指名

(3)会議録の承認について

○3月定例会会議録

(4)協議・報告事項

① 専決処分の報告について

- ・令和8年度美濃加茂市教育支援委員会委員の任命について
- ・令和8年度美濃加茂市医療的ケア運営協議会委員の任命について
- ・令和8年度美濃加茂市学校検尿判定委員会委員の任命について
- ・令和8年度美濃加茂市給食センター運営委員会委員の任命について
- ・令和8年度共同学校事務室協議会委員の任命について
- ・令和8年度共同学校事務室室長及び副室長、室員の任命について
- ・教育振興マネージャー及び教育振興コーディネーターの委嘱について
- ・令和8年度学校運営協議会委員の任命について

② 令和8年度の児童・生徒数について

③ 教育委員会行事予定等

④ 教育センター事業報告

⑤ 令和7年度学校関係者評価について

(5)その他

会議録

(1)教育長あいさつ

梅村教育長

改めまして、皆さんこんにちは。

新しい体制での令和8年度が始まったということで、また5人の教育委員の皆様とともに美濃加茂市教育委員会、力強く進んでまいりたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

そして、学校にとっても1年で最も忙しいとされるこの4月が終わろうとしております。この間、私が校長先生方からお話を伺ったり、あるいは学校便りを拝読したりしながらですね、どの学校もおおむね順調に子どもたちをしっかりと乗せて船が出発した報告を受けており、本当に心から安堵しているところでございます。子どもたちはもちろんですけれども、先生方もフル稼働の1ヶ月ただだろうというふうに思っています。

私が教員時代も、目の前のゴールデンウィークを、もしかすると生徒たちよりも心待ちにしていた自分が本当に恥ずかしくも懐かしく思い出されるところでございます。

本日の議題に入ります前に、一つだけよまやまなお話をお届けしたいと思います。少しお付き合いください。それからまた後で皆さんの受け止めとかご感想などお聞かせいただければなお幸いです。

先日、ロンドンマラソンで、ケニアのサウエという選手が人類の限界と言われていた2時間を切る1時間59分30秒という大記録を打ち立てて話題になっているということを耳にしました。詳しくは太田係長さんにお任せをします。後で振りますので。

これを私も映像で見たんですけれども、人間も、今なお本当に進化を遂げているな、本当に頼もしいなということを素人なりに思った次第であります。その一方で、今度は場所を変えて、北京のマラソン大会では、AI を搭載したロボットが、人間たちが走る中で人間たちを上回るすごい速さで駆け抜けていく、そんな映像も流れていたんですね。ほぼ同時期だったんじゃないかなと思うんですが、なんとも複雑な気持ちで2つを見比べていました。

教育の面からなんですが、ちょっとマラソンと離れちゃうんですけど、実は将棋界でも同じように人間の最高峰とされる名人が、もはや AI にはとても太刀打ちできない段階を迎えてしまっているというわけです。これも10年前ではそんなことはなかったんですけれども。その2つのことを自分の中で重ねながら、教育的な面からふと思うことは、今私たちっていうのは AI に負けないような人間を育てていくのか、それとも AI と一緒になって新しい価値を探していく人間を育てていくのかという自問自答だったんですね。教育の場合で言えば、おそらく間違いなく後者だろうというふうに思うわけです。

言わずもがななんですけれども、速く走ることとか正確に先を読むこととか、膨大な情報を瞬時に処理することとか、そんなことは今後ますます AI に溝を開けられていくことはもう自明のことだろうと思います。一方で、やはり人間にしかできないことが絶対にある。よく言われることですが、なんでそんなに長い距離を走ってゴールを目指すのか、あるいは負けても立ち上がっていくその

意味って何なのかということ。それから仲間と励まし合って悩み合って喜び合う「りくりゅうペア」みたいな姿に魅了されるのは一体何でやと。そういった何とも測れない部分に問いを立てていく感性こそが、あるいはその部分にこそ人間の尊厳があるような気がしてなりません。

将棋も同じなんですね。勝ち負けだけじゃなくて、例えば AI が、たくさんの手の中から最善手をポンと弾き出したとしても、その三五歩っていう一手に至るまでの葛藤の部分であったりとか、この手でなくてこの手を選んだっていう美学であったりとか、あるいは勝負感、30年、50年かけた勝負感とかそういったところには、AI にはこの先もきっと到達はされないだろうなってことを思ったりするわけです。

やっぱり、そうやって考えたときには、前に戻りますけれども学校教育が育むべきはやっぱり知識の量とか点数だけでは測り知れない力であろうなって思います。それが非認知能力と呼ばれるものです。

繰り返しますが、自問自答する力とか、共同して頑張る力とか、ピンチを跳ね返す力とか、失敗に学ぶ力とか、大きいですけども人生に意味を見出す力とか。そういうところを教育の中にどんどん盛り込んでいかなきゃいけないなということを教育長として思っております。そうやって考えれば、決して AI の進化をいたずらに恐れる必要はない。むしろ AI の存在によって人間力とは一体何なのかっていうことを追求できるのじゃないかなというふうに、ちょっと偉そうに思っております。

もうちょっとだけ添えさせていただきますけれども、先週の新聞でした。やっぱり身近なところで言いますと、SNS の病的使用っていうちょっとショッキングなタイトリングがありましたね。例えばネットの利用時間が1日に6時間以上と、とても自分では想像できないような長い時間没入する子どもたちが7%ぐらいいる。そういう、自分で自分の使用時間制限もできなくなった、コントロールがきかなくなった10代の人たちが7%ぐらいいるのではないかという国の調査結果が出ていました。これなんかを取り上げると、明らかにこれは負の側面であるに違いはありませんよね。こんなものが進んでいけばいいわけがないというところなんです。

ただ、その一方で人類というのはこれから本当に AI とどんなふうに共存していくといいのか。子どもたちにとって、あるいは彼らをどういうふうに導いていったらいいのか。深いテーマなんだけども、さっきのようなニュースを見聞きするたびに考え始めているところでございます。本当によもやまな雑感で恐縮です。

では、ご感想でも別の話題でも結構ですが、ちょっと受け止めを一言いただけますと幸いです。

渡辺委員

受け止めというか私は今年で教育委員を拝命して10年になるんですけど、この期間にもコロナや今の AI といった感じで子どもたちを取り囲む環境というのは、本当に大きく変わってきているなというのを強く感じております。その中で、学校に求める役割というのも多様化していると思うんです。

その中で、AI とどう付き合うかというのは大事なことだと思うんですけど、個人的には AI って非常に便利で「ドラえもん」みたいなものかなと思っていま

す。のび太君にとってドラえもんはすごく助けになるんだけど、ドラえもんは、全部を助けてあげたらのび太君は成長できないから、時には突き放すということもあると思うんです。そういった関係性というか、困ったときに相談するのはいいんだけど、全てを任せることはできないよ、というものであるのかなと感じています。

梅村教育長

渡辺さんは、どんなときにドラえもんに相談されるんですか。

渡辺委員

一つは失敗したくない時というんですか。最低限これは務めなきゃいけないという役割があるときに最低限抑えておくべきポイントを相談するとか、そういったことをお願いすることもあります。あと、結構実際使ってみると便利で、例えば英語の習得をしたいから全部英語で投げてといて、本当に英語で投げてくださいとか。

だから、自分が具体的に求める像がはっきりしていればしているほど、それに対して的確に答えてくれるので、やっぱりどこまでいっても使う方の人間の使い方というのがポイントになるのかなっていうのを感じながらやっていました。

今はどちらかという情報収集も含めて色々な聞き方をしてみて、どう返してくるのかなっていうのを体験として蓄積してるっていう状況です。

梅村教育長

何をこそ取り入れるかっていう判断の部分に人間の大事な部分があるんですね。

渡辺委員

面白いことに、やっぱり成長していくみたいで、前回聞いたことをさらに盛り込んで返してくるっていうのが、びっくりするようなポイントになりまして、やればやるほど、自分の相棒としてはやっぱり賢くなっていくな、というのをすごく感じます。

梅村教育長

私も時々健康の相談をするもので、それを踏まえた昨日のアドバイスだったかもしれません。ありがとうございます。

榎間委員

AIというのは月ごとに変わっていくというのをすごく感じますし、やっぱり人間の一番できない、たくさんの統計の中で何をピックアップしていけるかという、それがどれだけ膨大な量が一度に計算できるかという、ただその一点にかかっているだけだと思うんです。それがもう速さとか量とかが毎日増えていくから、変わっていくに違いないなということも思います。

それで、一番いいなと思うのは垣根がないということですね。専門分野がなく全ての分野で同じように情報を持っているので、人間だったらきっとその人の得意な分野、医学とか数学とかそれぞれあるでしょうけど、それがいいですね。

先生がおっしゃったように、医学のことについては、薬でも、別に医学のページを開かなくても AI で十分答えて、これはすごいなというふうに思うんです。例えば、私は文化の森の学習係でしたが、森の中でいろんな草があって、この

草の名前はなんて聞かれた時にやっぱりそこにいる大人としては、こういう名前前で、こんな花が咲くんだよ、とかいうことを生で答えるっていうことが大事だろうなっていう風に思っただけ。もし知らなかったら、じゃあ図鑑調べてみようかっていう。それはやっぱり大人じゃなくて、相手が子どもだからだと思います。

例えば、スマホで写真を撮ったら、答えがパッと出てきたりするじゃないですか。花の名前とか育て方とか。それをしたら、やっぱり子どもは自分も知りたいなと思っていく方に向かない。だから、その花の名前、草の名前をその場ですぐ分かることを子どもたちに与えるというよりも、そのことを知っている大人がいて、そんなふうな周りにいろんなものがあるんだなっていう、小さいところを自分で開けていけるような、そういうものをやっぱり子どもには見せないといけなくなっているふうに感じます。

それは文化の森の職員じゃなくても先生方でももちろんあって、わからなかったら後で調べようかっていうふうに言われることが、子どもの成長に大事な意欲とか自分から向かっていくということにつながるのではないかなと思うので。

子どもが育つというのは時間のかかることで、やっぱり時間をかけるということ、学校ぐらいはしたらいんじゃないかなというふうに思います。どこでも簡単に「タイムパフォーマンス」というふうになっているような気がするんですけど、子どもが大きくなるには時間がかかるだろうし、そのこと自体が子どもを育てる。だから、遠回りをして一つのことしか結局見つからなくても、一つをちゃんとやることで、そういう子どもの芯が作られるのではないかなと思うので。

私たちはすでにそこを越えているので、使ったらいいと思う。年がいったらどんどん助かると思うんですけど、その大元の芯になるところを育てるのは、やっぱり時間をかけることではないかなというふうに感じます。

梅村教育長

そこを超えてきていない、これから超えていかなければいけない子どもたちなんですね。答えが分かる分からないじゃなくて、答えにたどり着くまでのプロセスを大事にする教育になりたいという。

ありがとうございました。

安藤委員

スマホの病気という新聞記事を拝見して、本当に大丈夫だったのかっていうのを感じまして。豊明市が時間制限をやっていて、そこまでしないといけないのかなと思うんですけども、周りの子育て中の方たちに聞くと、やっぱり親が制限すればいいんですけど、悪者になりたくない人ばかりで叱れないというか、制限できないというのになっちゃってるのかなっていう。ダメダメってイライラしてる割には制限をかけてない家庭がやっぱり多いので、学校が決めてくれればいいのかってお母さんは言うんですよね。その辺も決めないといけない時代になってきているのかなっていうのは感じました。

梅村教育長

本当におっしゃったように、家庭のルールを持たせるのは親であるということの大前提に考えたときの家庭の役割っていうのを、自分も親であったり孫を持つので、そこがいい加減になってないかなっていうこと、親自身の姿が本当に

子どもの手本になってるかどうかというあたりも、やっぱり鏡かなってこの記事を見て思ったところです。

だから、行政がルール決めてとかっていうふうに親が逃げたらもう負けたぞっていうことをちょっと感想として持ちました。ありがとうございました。

中西委員

先ほどマラソンの話しになりまして、私もあれを見ながらすごい勢いで走っているんですけど、途中で転ぶやつも何台かいたのでとても安心して。確かに記録的なものは良いんですが、「りくりゅう」のような感動は持ってないんです。AIが記録をやぶったぞって言って喜んでる雰囲気はなかったんで、やっぱり感情というか感動というか、そういうのがきつとまだそこまでというか、いずれ出るかと思うんですが。

AIに病状について聞かれましたときに、最初にねぎらいの言葉ありましたか？

梅村教育長

ねぎらいの言葉あるんですよ。本当にあります。

中西委員

私もあるんですよ。とりあえず最初に寄り添ってくるんですよ。

AIが前は寄り添うことなく、機械的に情報を提供してきたんですけど、今のAIは寄り添ってくるんですよ。

そうすると私たちの仕事なんですけど、最初に寄り添うっていうのはとっても大事なんだろうと思って。実は私も毎週研修会するんですけど、今年も春の研修でAIをいかに説教に利用するかというのを研修したんです。今の若い和尚はそれぞれ高学歴ですから、滔々といいお話をしてくれたり、あるいはAIから引いてきたものとかで文章にしたり、起承転結素晴らしいものをするんですが。ところが、聴衆に聞くとバラバラやったおじいさんの和尚の話もよかったなんて。実際の文章にしたものと全然違う反応が出てきてしまうので。

やはりそこに「寄り添う」とか、「心」とかがきつと欠けてるんだろうなというところを研修してたんです。もう私たちが20年ぐらい前にロボットの法話を京都の寺で私の先輩が始めました。あえてお坊さんの格好をせずに完全にロボットの格好で。それは当然、最初は寄り添うという形じゃなくて、それが今は、今聞きに来ている修学旅行生とか、おじいちゃんおばあちゃん、それを拾って話してくれるようになっているんですよ。そうなってくると、一体私たち人間はどうなるだろうと思うんです。

たまたま今、朝の連ドラ楽しみになって、朝の掃除も8時になったら上がってきて見ているんですが。今もちょうど看護婦さんの話で、ナイチンゲールが話したところを日本人が英語に訳しながら、というところで質問していたのが、「see」というただ見るというのと、それから「well watch」というところを看護と訳す。観察、見ているという訳ではなくて意識するところが本当に日本語は深いよねという話をしたんですけど。

心というのが、あるいはマラソン選手の走り切ったときの感動がロボットには負けない。少なくとも先生は負けずに素晴らしい教育をしていただけるなと思います。

梅村教育長

中西さんのおっしゃるように、ロボットの心もまだまだ進化するかもとおっしゃっていたんですが、そうなってくると、本当に我々教師も感じる場所ですね。

ありがとうございました。

武田委員

本当に AI はもう、なくては生活できないくらい私も毎日使っていますし、離れた人、高齢の両親だったり、そういうところでも SNS があることで本当に安心感も持てるし、お互いに連絡が取り合えるというところで、AI というのは SNS 含めて全て便利は便利で、本当に今なくてはならないものなんですけれども、やっぱり子どもたちにとっては、AI の使い方っていうところにおいて、情報を取ってくるのは必要かもしれないんですけど、体験なしの情報なので。すべて机上のものをもって自分がやったように話すってところがすごく気になるなっていうところはあります。

ここから先、AI に勝つなんてことは無理だと思うんですね。でも、その情報をどうやって使うか、選択するか、どう判断していくかというそういう力を、どんどん子どもたちにつけていってほしいな、ということは思います。

今もベネッセさんに来ていただいて外国人の子どもたちの学習の様子も見てくださっているんですけども、外国籍の子どもたちと触れ合うので感じるんですが、日本で生まれても日本語がきちんとできていないっていうところに行くと、やっぱり AI の力も借りながら、どういうアプリがいいかはわからないんですけども、それを有効的に使えるようなことを開発していただけたということでしたので、とても期待しております。

梅村教育長

今、ベネッセさんの話を伺いましたが、今日も午前中、彼女たちと意見交換する場があったんですが、これはもうさすが民間の教材開発のプロですので、そういった部分は長けているんですけども、私が今感銘を受けているのは、そのマインドですね。あの方たちはスキルがすごいだけでなく、目の前の外国人の子どもたちの勉強をどうにかしたいなという気持ちを私たちに負けないぐらいお持ちだということが最近になってよくわかるようになってきて。やっぱりスキルが生きるも死ぬもその部分かなっていうのを感じております。

ボランティアでも学習支援しておられると聞いて、ますますありがたみを覚えています。

また、ご指導よろしくお願いたします。

大変長くなりましたけれども、大事なトピックに対して皆さん、本当に貴重なお考えをお寄せいただきました。私自身がすごく勉強になりました。

ありがとうございました。

それでは、ただいまから美濃加茂市教育委員会令和8年4月定例会を開会いたします。

(2) 会議録署名委員の指名

梅村教育長

はじめに、次第の2、会議録署名委員の指名を行います。美濃加茂市教育委員会会議規則第14条第2項の規定により、令和8年4月定例会会議録の署

梅村教育長

ただいまの説明についてご質問等はございませんでしょうか。
ご確認いただけたということで、次に移らせていただきます。
次に令和8年度、美濃加茂市学校検尿判定委員会委員の任命についてです。
事務局から説明をお願いします。

伊藤教育総務課長

それでは、配付資料3ページをご覧ください。
学校検尿判定委員会は、学校腎臓検診において尿検査結果に医者判断を加えるため、令和6年度から開催しているものです。
委員については、規約において加茂医師会所属の医師3人以上と規定されております。その3人、中部国際医療センター小児科の後藤先生につきましては昨年度から、林先生と森本先生につきましては一昨年からの引き続きとなります。
なお、今年度から定住事業として加茂郡7町村を含めた全ての学校の判定を行う予定です。開催は年に2回で、検査結果のより詳細な判断を引き続き進めていく予定です。
よろしく願いいたします。

梅村教育長

ありがとうございました。
ただ、いまの説明についてご質問等はございませんでしょうか。
ありがとうございました。
それでは続きまして、令和8年度美濃加茂市給食センター運営委員会委員の任命についてです。
事務局から説明をお願いいたします。

伊藤教育総務課長

では、引き続き4ページをお願いします。
給食センターの適正かつ円滑な運営を図るため、美濃加茂市学校給食センター設置条例において給食センター運営委員会を置くこととされております。
4ページは名簿となっております。委員定数は20人以内となっておりますが、美濃加茂市給食センター運営委員会規則によって1号委員は市議会議員を、2号委員はPTA 役員を、3号委員は校長先生を、4号委員は学識経験者、5号委員はその他教育委員会が必要と認める者として、合計13人となっております。また、任期につきましては2年となっており、備考欄の継続となっている方につきましては前回からの再任となっております。
会議としましては、毎年度2回程度開催しまして、学校給食に要する物資の調達、給食費に関する事項や施設整備に関する事項などを審議しながら、安心安全な給食を提供していきたいと考えております。

梅村教育長

ありがとうございました。ただいまの説明についてご質問等はございませんでしょうか。
ご確認いただいたということで次に移ります。

令和8年度共同学校事務室協議会委員の任命について事務局から説明をお願いします。

伊藤教育総務課長

それでは、5ページをお願いいたします。

今年3月の定例会で、規則改正及び要綱制定をご承認いただいたものとなります。昨年度まで事務の共同実施という形で取り組んでいたものを、規則に明記した共同学校事務室が行う業務を円滑に進めるため、協議会を行うこととなっております。委員は、校長代表、中心校長、教頭代表、教務主任代表、東西の室長並びに教育委員会事務局の課長2名となっております。会議の開催は年2回を予定しております。

梅村教育長

ありがとうございました。ただいまの説明についてご質問等はありませんでしょうか。

ご確認いただけたということで次に移ります。

令和8年度、共同学校事務室室長及び副室長、室員の任命についてです。事務局から説明をお願いします。

伊藤教育総務課長

では、6ページをお願いします。

先ほどご説明しました共同学校事務室におきまして実際に事務室業務を行う学校事務職員を岐阜県教育委員会の同意を得て任命をしております。

加茂野小学校の武市室長は併せて統括室長に、東中学校旗屋室長は併せて副統括室長に任命をしております。

共同学校事務室では定期的に会議を行うとともに、共同で事務を進めるなど、事務の効率化や学校運営の支援に努めていただきます。

梅村教育長

ありがとうございました。ただいまの説明についてご質問はありませんでしょうか。

ありがとうございます。

次に、教育振興マネージャー及び教育振興コーディネーターの委嘱についてです。

事務局から説明をお願いします。

伊藤教育総務課長

では、7ページをお願いします。

先ほど触れていただきましたベネッセからの地域活性化起業人となります。

今年度、総務省の地域活性化起業人制度を活用しまして、教育分野に知見のある株式会社ベネッセコーポレーションから2名の方を教育委員会事務局の職員として迎えております。

勝野さんは教育振興マネージャーとして、学校教育課で外国籍の児童生徒向けの教材開発に、また、永富さんにつきましては教育振興コーディネーターとして、教育総務課で部活動の地域展開等に取り組んでいただいております。

市が派遣元企業から受け入れ、出向という形で教育委員会に配属しているため、教育委員会として両名の委嘱を行っております。

梅村教育長 ありがとうございます。ただいまの説明についてご質問等ございませんでしょうか。

 それでは次に、令和8年度学校運営協議会委員の任命についてです。事務局から説明をお願いします。

高橋学校教育課長 別綴じにございます、学校運営協議会委員名簿をご覧ください。

 学校ごとに委員の方をお載せしております。

 学校運営協議会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の5に基づき、地域住民や保護者が学校運営の参画に関わるという制度でございます。美濃加茂市では、令和3年度に山之上小学校にて先行設置され、令和4年度から全ての小学校に、また令和5年度から全ての中学校において設置されました。この委員の任命に当たりましては、美濃加茂市教育委員会で任命をするということと定められております。

梅村教育長 ありがとうございます。ただいまの説明についてご質問等はございませんでしょうか。

 ありがとうございます。

② 令和8年度の児童・生徒数について

梅村教育長 それでは続きまして、令和8年度の児童生徒数についての報告をお願いします。

高橋学校教育課長 令和8年度の児童生徒数についてでございますが、本資料に記載されております。

 まず、内容につきましてですが、各学校の児童数の中にカタカナでチもしくはジと書かれているものがございます。チは知的の特別支援学級、ジは自閉症・情緒学級の特別支援学級ということになっております。

 数のほうに関わりましては、小学校においては昨年度の3505名から、今年度3388名となり、117名減となっております。この減少傾向につきましては、令和4年度から始まっている状況でございます。中学校におきましては、昨年度の1991名から今年度2004名となり13名増となっております。このところ横ばいで微増微減といったところが続く見込みでございます。このあたりは小学校からの数がそのまま中学校には上がってくるところで反映れているものと理解しております。

 ざっとでございますが要点のみお伝えをいたしました。

梅村教育長 今年度スタートの児童生徒数でしたが、何かよろしいでしょうか。

③ 教育委員会行事予定等

梅村教育長 では、続けます。教育委員会行事予定について報告をお願いします。

昨年まで2月並べてご紹介をしていたと思いますが、字が細かくなりましたので、横向きで一枚ずつ一月ずつお示しをいたします。

まず4月におきましては、1日の服務宣誓式、7日の入学式にご出席を賜り、誠にありがとうございました。期待に胸を膨らませる子どもたちの様子をご覧いただけたかと思えます。ただ一方、不安な思いを抱く子もいらっしゃるのも事実でございます。各学校においては、そうした様々な思いや状況にあるお子さんや保護者に対しても、安心して学校へ来ていただけるように様々な工夫が施されていたと聞いております。事務局としましては、本市教育の一層の振興を図ることができるよう、こうした学校の取り組みを一生懸命支えてまいりたいと思っております。

また、第3次美濃加茂市教育振興基本計画が2年目となります。8日及び9日には管理職に、また10日には教務主任に、そして21日には初任者に対してフロム0歳プランの趣旨、目指す人間像、今年度の重点等を説明したところでございます。また、加えて14日には全小中学校の校長対象に特別研修会を実施し、F-0推進課の課長により、それぞれの課が児童生徒の資質能力を育成するためにどんな事ができるかについて説明をしていただきました。それぞれの得意分野や有する活動プログラムなどについて、校長先生方には理解を深めていただいたところでございます。今後も各校が自校の実態に応じて適切な連携を図り、教育活動を展開できるよう事務局として支援してまいります。F-0推進課と一体となった取り組みを今後もお伝えしていきたいと思っております。

それでは続きまして5月および6月の予定をご覧ください。4点ご連絡いたします。

1点目になります。5月8日をご覧ください。美濃加茂市加茂郡教育研究会全体会が行われます。この会は、授業研究会等を通して教員の授業力等の向上を図ることを目的としております。8日は今年度の研究計画を協議するという会となっております。また、具体的な研究会等につきましては、翌月の19日、26日に実施することとなっております。

2点目でございます。6月17日をご覧ください。山之上小学校の集団宿泊研修行事が実施されます。行事の目的を今一度確認いただくとともに、危機管理体制の徹底、健康安全管理等を十分に配慮いただくよう依頼をしております。また同時に、保護者への十分な説明をするよう指導をしていきたいと考えております。

3点目でございます。5月28日をご覧ください。西中学校と東中学校が体育祭を計画しております。また30日には太田小学校で、翌6月2日には山手小学校にて運動会が計画されております。児童生徒の健康安全の管理をしっかり見届けるよう依頼するとともに、児童生徒の充実感につながる活動が展開されるよう指導してまいります。

4点目でございます。6月13日をご覧ください。少年の主張美濃加茂大会が行われます。中学生ならではのみずみずしい感性や発想に加え、いかに主張を伝えるのか、こうした表現力の伸長にも活かしていただける大会かと思っております。そうした指導を受けながら、子どもたちがどんな工夫をするのか非常に楽しみにしたいと考えております。ぜひご覧になっていただけると嬉しく思います。

最後になりますが、昨年度は6月から7月にかけて、各学校の教育委員会訪問を実施いたしておりましたが、今年度につきましては10月から11月にかけて実施する予定でございます。後日、日程等を紹介させていただく予定でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

④ 教育センター事業報告

梅村教育長

では、次に教育センター事業報告をお願いします。

井上センター次長

失礼します。

美濃加茂市教育センターという冊子がございますのでご覧ください。

美濃加茂市教育センターの方では4月、昨年度までに決まっておりました研修等の講師への依頼や、各学校の担当者との顔合わせなどを行いました。実際に研修や研究事業などをゴールデンウィーク明けの5月から始めていきたいと思っております。

7ページ、8ページに年間の計画がありますので、充実した研修になるように今後とも講師等の予定、準備等を進めてまいりたいと思っております。

9ページになります。あじさい教室の年間活動実施及び計画が載せてあります。今年度、教育センターの方では、学校に足が向かない生徒の心のケアを充実させていくということで、このような年間計画の下、事業を行っていききたいと思っております。よろしくお願いいたします。

10ページになります。特別支援教育ということで適正な修学を進めるための早期支援の充実ということで、4月からあじさい発達相談実施、巡回発達相談等の計画、通級指導教室の巡回相談等各学校の実情に応じまして、担当の者が学校訪問等を行っております。

⑤ 令和7年度学校関係者評価について

梅村教育長

続きまして。令和7年度学校関係者評価について、説明をお願いします。

高橋学校教育課長

お手元に各学校から出されました評価を受けての今年度の取組についてまとめたものをご準備いたしました。この学校関係者評価につきましては、学校教育法施行規則第67条に定める評価となっております。

学校が行った自己評価の結果について、学校に関係の深い方々に評価をいただき、客観性や透明性を高めることともに、次への改善をつなげるということを目的としております。美濃加茂市立小中学校管理規則の第8条第3項に則り、その評価の結果を報告させていただきます。お手元には、各学校の報告書がございます。お時間があるときにご覧になっていただければと思っております。

本日は各校が挙げました改善方策の概要について、私の方で大きく特徴的なことを2点述べさせていただきます。

1点目は、学校だけでなく地域との連携を生かした教育活動の充実を図っていききたいといったことです。コミュニティスクールの一環として、地域の方から

のサポート体制を確立し、学習活動の一層の充実を図ること。また、日常的な交流が生まれる機会として給食の配膳のサポートであったり、花壇の手入れであったりといったことに取り組みながら、子どもたちの頑張る姿を具体的に見て認め、励ましていただくといったようなことに取り組んでいきたいといったこと。そして、子どもたちが地域を身近に感じ、積極的に関わろうという思いを抱けるようにしていきたいという学校が多くございました。

2点目でございます。自己肯定感、表現力、粘り強く取り組む姿勢など、先ほど教育長がお話しいたしましたが、いわゆる非認知的能力の育成を掲げる学校が多くございました。学校評価の結果を受け、自分の良さの自覚や将来の夢を描き広げられるよう、さまざまな人との関わる場や学びの成果を学校外の方に発表する活動の設定など、具体的な策を講じて取り組んでいく学校が多くございました。これらは、美濃加茂市で取り組んでいるフロム0歳プランが各学校や地域の状況に応じて展開されていることの表れであると捉えております。

多くの方との多様な関わりは面による指導、将来にわたり地域と歩む構えづくりはロングスパンの具現と言えると考えております。2年目となりました第3次教育振興基本計画に則り、自分が思い描く幸せな未来を想像していく子の実現を目指し、自立力、共生力、創造力をバランスよく育成しようとする各校の営みについて、その意図を汲みながらしっかりと事務局として支えていきたいと考えております。

梅村教育長

ありがとうございました。お手元には12校の記載がございますので、また改めてご一読ください。よろしく願いいたします。

(5)その他

梅村教育長

それでは、ここまで報告説明等が続きましたが、全体を通して何かご確認なされたことがございましたら、お願いいたします。

榎間委員

聞き逃したのですが、医療的ケアを必要とする子を学童保育に行かせたいとかいうときに、どのような関わりがあるのかというのを伺いたいと思います。

高橋学校教育課長

私見になってしまいますけれども、第一に優先されるべきは子どもの安全です。この医療的ケアに関わりましては、学校の教育活動において医療的な側面からのサポートをどのように実施していくのか、これにつきましても、組織的な取り組みが求められるところでございます。

当然、その根底には、医療的ケアを必要とする一人一人のお子さんに対するお医者様からのご指示があるわけでございます。これは、学校という組織だった生活の中で実現できるものであると思います。

今、学童といった環境においてそこまでの統制とかといったところは、なかなか難しい面もあるのかなと推測いたします。ですので、子どもの安全といったところを考えた場合は、学校の教育活動の中で応じてきた一つ一つの安全の

確認ですよね、こうしたことを踏まえていく必要があるかと思いますので入れるということはなかなか難しいのかなといったことは思います。

榑間委員

学童の先生とかが医療的ケアの内容のなんかについても深く知っていただいたりして、初めて安心して行けるというのは、先生がおっしゃっていたと思うんですけど、それが実際に学校にいる間はこれだけされているけど、そこに学童保育とかに教育委員会が伝えていかれる機会があるのかなということも思ったんですけども。

高橋学校教育課長

自分も、以前勤めていた特別支援学校においても、例えば放課後等デイサービスというのがございますが、そこでも医療的ケアのお子さんを受けるというのは、実はかなりハードルが高い状況でした。専門性の高い医療スタッフがいるということが前提となっていましたので。

これを小中学校のレベルで実施していこうといったことについては、相当の難しさはあるかなと思います。ただ、医療的ケアの実施とかといったことについてはなかなか難しいといったところは言えるんですけども、それを伝えていくことについてはどうなのでしょうね。

榑間委員

何か個別の対応というのは。

高橋学校教育長

そうした場合には、学童でお受けするというよりは特別支援学校が利用している放課後等医療デイサービスを活用するということになるのではないかと思います。特別支援学級の子たちも活用しているわけですので、そうした扱いになっていくのではないかと。

ですので、学校単位というよりは、市町村をまたいだそうした福祉の専門性が担保されている状況下で、その子たちが活動できるように、連携して支援していくという考え方になるかと思います。

榑間委員

普段の学校生活に支障なくて、同じように生活しているけれども、ちょっと気をつけなければならないというそういう子たちが学校には医療的ケアが必要な子でいると思うんですけど。特別支援学校までではなくてもそういうところで少しつながりがあれば、普通に学校で生活しているんだからみんなと同じように生きていけるのではないかなという気がします。

高橋学校教育課長

成長するにつれて自分でその状況とかを把握して、それに対応する力をつけていけることができたりとか、それがまた他者との関わりの中で具体的なそうした自己ケアが可能であるとか、あるいは誰かの助けを借りなければならないといった場合にはそれが実施可能であるといったところがあれば考えられるかもしれませんが、ただこの辺りについては、いろいろな判断の準備も必要となると思いますので、具体的な一つ一つのケースに応じた検討が必要になってくるかなということだと思います。

榎間委員	学童保育は外部委託だから、そこら辺と連携をどこかで変えていくことがあればいいかなという気がしました。
梅村教育長	ありがとうございました。
渡辺委員	先ほど、令和8年度の児童生徒数について報告いただきました。 その中で、小学校が前年から117人と大きく減少傾向にあるというお話だったんですけども、学校別とかにおいて顕著に増減するような大きいところがあったらちょっと教えていただきたいと思います。
高橋学校教育課長	まず、小学校において今年度増加した学校につきましては、山之上小学校の3名、三和小学校の3名から山手小学校の10名といったところがございます。小規模の学校で3名増えているといったところが特徴的なことかなと思っています。 中学校の方は、西中学校2名、双葉中学校は17名増えております。この辺りが増えるといった実情があります。 あと、減少の方でいきますと、一番大きな減少を見せたのは太田小学校で31名減ということになっております。続いて古井小・加茂野小ともに28名といったことになっております。要因については把握できませんが、そのような数でございます。
梅村教育長	他いかがでしょうか。
武田委員	すみません。さっきのお話の続きで、子どもたちの数ですけど、外国籍の子たちはパーセンテージとしては増えているのでしょうか。
高橋学校教育課長	そのことについては準備しておりませんでしたので、またお調べをして伝えさせていただきます。
梅村教育長	増減の背景とか、またお願いいたします。よろしかったでしょうか。 ありがとうございました。 それでは、その他に入ります。事務局から何かございますか。 最後に次回の日程を確認したいと思います。
伊藤教育総務課長	それでは次第の下段に記載の5月の開催から確認をさせていただきます。 次回は5月27日水曜日の午後3時から生涯学習センターの203で行われます。 6月は、25日木曜日の16時からよろしいですか。 それでは6月の場所につきましてはまた予約ができ次第、お知らせさせていただきますので、よろしく願いいたします。
梅村教育長	長時間にわたり、ありがとうございました。これをもちまして教育委員会令和8年4月定例会を閉会いたします。

皆様ご協力ありがとうございました。

閉会 午後4時15分